

[年度] 平成29年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] ウンシュウミカン ‘きゅうき’ の簡易貯蔵と幼木時の管理方法

[担当機関名] 果樹試験場 栽培部

[連絡先] 0737-52-4320

[専門分野] 果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

和歌山県オリジナル品種の‘きゅうき’は、12月に成熟する中生ウンシュウミカンです。従来の品種よりも浮皮が少ないうえ、早生ウンシュウミカンのようにじょうのう膜が薄く、食味が優れます。そこで、早生のような食味を持つ‘きゅうき’を新たな年明けの商材とするため、簡易な貯蔵法を検討しました。一方、樹勢がやや弱く定植直後でも花が着きやすく、枝や葉の成長も緩慢であることから、幼木の適正な枝梢管理法についても検討しました。

[研究の成果]

1. ‘きゅうき’果実の簡易貯蔵方法

12月上旬に収穫した果実を入れたコンテナを積み上げた後、不織布シート（タイベックソフト）で被覆して貯蔵する簡易な方法です（写真1）。

- 1) 被覆することで無被覆に比べて湿度を約10%高く保持できます（図1）。
- 2) 1月下旬まで果実の減量率を低く抑えることができます（図2）。
- 3) 貯蔵期間中の果実品質の変動が小さいことが確認できました（図3）。



写真1 簡易貯蔵の様子
(縦置き、横4×縦2×4段)

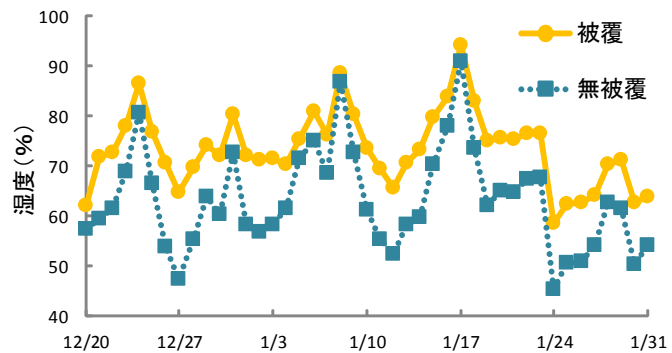


図1 ‘きゅうき’貯蔵中の湿度(%)
※2017年12月4日収穫、予措後12月20日より貯蔵

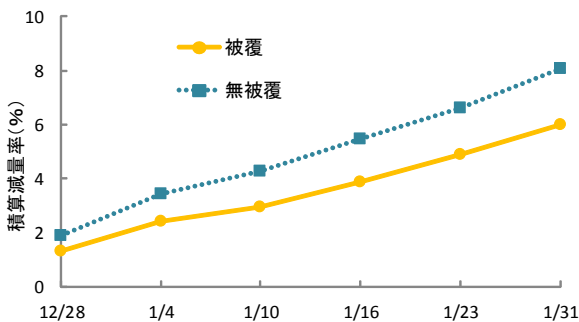


図2 ‘きゅうき’貯蔵中の積算減量率(%)

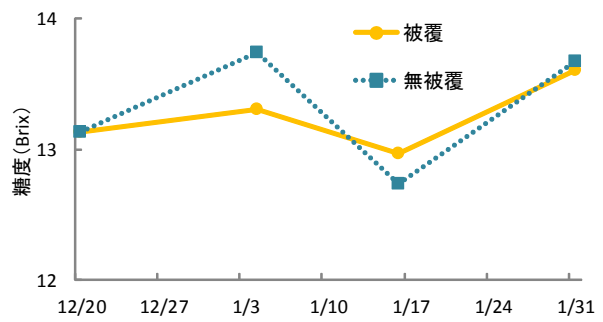
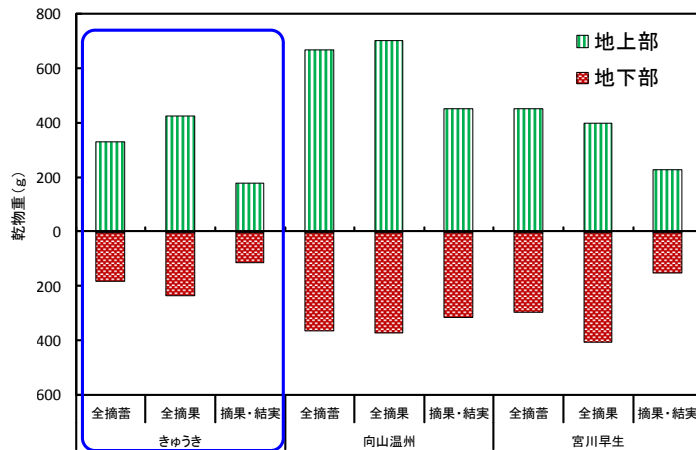


図3 ‘きゅうき’貯蔵中の糖度(Brix)

2. ‘きゅうき’ 幼木の管理方法

- 1) 幼木の生育は従来の品種に比べて緩慢で、結実させると地上部（新梢や新葉）や根の量はさらに少なくなります（図4）。
- 2) 全摘蕾（5月）あるいは全摘果（6月上旬）を行えば、地上部および根の生育量は多くなります（写真2）。



※摘果・結実区：
8月上旬、適正葉果比になるよう摘果。
その後、11月下旬まで結実させた。

図4 3年生幼木の管理方法と生育量



全摘蕾区 全摘果区 摘果・結実区
写真2 各処理別の‘きゅうき’地上部・地下部の生育状況

[成果のポイントと活用]

1. ‘きゅうき’ 果実は、収穫後倉庫内で不織布に覆って保管することで、年内だけでなく年明けにも出荷が可能です。
2. ‘きゅうき’ の幼木は成長が緩慢ですが、植栽後2～3年間は結実させずに全摘蕾や全摘果を行えば、樹冠の拡大を図ることができます。

[その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業、課題名：県オリジナル中生品種‘きゅうき’の越年出荷技術の確立）

研究期間：平成27～29年

研究担当者：中地克之、岡室美絵子、中谷章、水上徹

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可